

ラスト5分半の胸を打つ〈大逆転〉スピーチ！ たった一人の女性の信念が、世界を変えた——

実話をもとに、史上初の男女平等裁判に挑んだ女性弁護士ルース・ギンズバーグを描いた映画『ビリーブ 未来への大逆転』。3月22日(金)からの公開を前に、ファッション評論家のピーコさんと、元アナウンサーで現在、弁護士として活躍する菊間千乃さんに本作の魅力を語り合っていた。



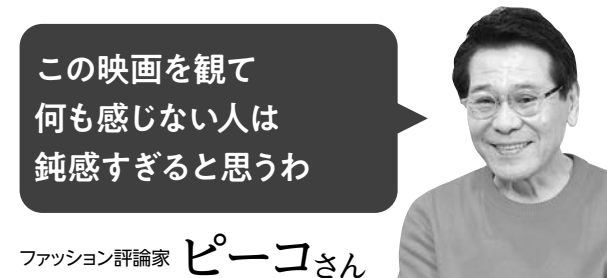
人はどうやって困難を乗り越えるのか

ピーコ 1970年代の米国で性差別が横行してたのは知ってたけど、弁護士の世界もそうだったのが衝撃。そんな中、不屈の精神で突き進み、男女平等裁判に挑んだルースって本当に偉大。今私たちが当たり前に享受している自由も彼女のお陰よ。

菊間 でも、決して手が届かないスーパーウーマンではなく、ごく普通の女性としても描かれている。そのせいか、私にもできるかも、自分も頑張ろうって思わせてくれるんですね。

ピーコ 彼女が妻であり、母親であり、働く女性の一人であることが伝わってくるからだとも思う。弁護士としてではなくてもどうやって困難を乗り越えたかを描いている。それと彼女のダンナがまたいいよね。

菊間 そう、ルースがづらい状況に立たされるたびに励まし、支えてくれて。とはいえ、彼女も甘えてばかりではなく、ダンナさんが病気の時は献身的に看護する。二人は常に平等でまさに理想の夫婦！絶対的に信頼し合ってる感じ。そして娘も母



この映画を観ても感じない人は鈍感すぎると思うわ

ファッション評論家 **ピーコ**さん

ピーコ / 1945年横浜市生まれ。文化服装学院を経て衣装デザイナーとなる。75年に双子の弟・おすぎさんと「おすぎとピーコ」としてラジオでデビュー。以後、タレント、ファッション評論家、シャンソン歌手として活躍。



諦めるのはやめよう。新たな勇気をもらいました

弁護士 **菊間 千乃**さん

きくま・ゆきの / 1972年東京都生まれ。95年フジテレビにアナウンサーとして入社。2005年大宮法科大学院大学に入学し、10年司法試験合格。11年松尾総合法律事務所入所。現在は、弁護士として多方面で活躍中。



親思いで。そうした家族の愛があったからこそ、彼女がここまで頑張れたのだと思います。私が弁護士になれたのも家族の支えがあったからなので。

ピーコ ルースが「女性」だったのも大きいと思う。女性は強いよ！

エンディングが爽快！
日本中の人に観て欲しい

菊間 実は私が局アナ時代、すごく影響を受けたのがピーコさん。一緒にワイドショー番組に出ている時、疑問を持ち、考えることの大切さを教えてもらった。だから、ルースの原動力になっているのが亡きお母様の言葉「すべてに疑問を持って」であることにすごく共感しました。

ピーコ まあ、うれしい。でもそれって、生きていく上で本当に大切。すべてに疑問を持ち、正しいかどうかを考えないと、世の中は良くなるらない。ところが今、多くの日本人が怠惰で考えなくなっている。そのせいで最近、世の中が妙に悪くなっている気がして仕方ないの。

菊間 確かに。ただ私は、世の中は変えられると信じているところがあつて。今回、本作を観て、「これはおかしい」と疑問を持つて変えようという行動することで本当に世の中は変わっていくんだと確信。何か新たな勇気をもらいました。法律は私たちが生活しやすくするためのものだから、どんな時代に合ったものに変えていけばいいし、変えることを諦めてはいけないなつて改めて思いましたよ。

ピーコ クライマックスの彼女のスピーチに、そういうメッセージが込められているわね。このシーンを観ても感じない人がいたら相当鈍感よね。

菊間 あのシーンのセリフはどれも素晴らしいと思いました。思わずメモっちゃいました。

ピーコ 終わり方も気持ちがいいのよ、この映画。スカッとするといいか晴れ晴れした気分になさせてくれるわね。余談だけど、女性にはぜひルースの服装もチェックしてほしいの。どれも「デキル女」に見えるステキなファッションばかりだから。

菊間 いろんな意味で教えられたいので、多くの方に観ていただきたいですね。



ビリーブ

未来への大逆転

STORY

貧しいユダヤ人家庭に生まれたルース・ギンズバーグは努力の末、名門ハーバード法科大学院に入学。その後、夫マーティンの協力のもと首席で卒業するが、女性ということを理由に雇って貰えない法律事務所はなかった。それでも弁護士の夢を捨てられないルースに、マーティンがある訴訟の記録を見せる。専業主夫になって母親の介護をすることが認められない男性を擁護するその裁判が「男女平等」を訴える第一歩になることを信じ、自ら弁護を買って出るのだが……。